

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
千葉県我孫子市
【転出元】
千葉県我孫子市
【前 職】
個人事業主（飲食店経営、料理、絵画制作）
【活動時期】
R4.12～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

応募理由は移住と手漉き和紙の2点。以前新聞記者として働いていた頃、協力隊への取材経験が多かったこともあり、地方への移住を視野に入れたときに協力隊という選択肢への理解があったこと。同時に、絵画制作を行う中で関心の強かった手漉き和紙の世界に飛び込んでみたいという気持ちがあった。長和町にある「立岩和紙の伝承」の協力隊募集の記事を目にする。立岩和紙について調べてもなかなか出てこず、直接現地に行きいろいろな方から話を聞くも生産、販売、伝承の枠組みなどの実態が把握できずにいた。そんな現状の中で募集が行われていることの不思議さと、いっそ身を置いて確かめてみるしかないという好奇心に駆られ応募に踏み切った。

今後の抱負・任期後の目標

手漉き和紙の技術的な研鑽はもちろん、和紙の可能性を追求しながら伝承活動を持っていく。和紙作りをはじめ、創作和紙や加工物の製作、作品制作などを通して引き続き取り組み、まずは知っていたためにPR等にも力をいれる。同時に、閉鎖的な形で維持されてきたゆえに立岩和紙をめぐる現状には多くの課題がある。私が率先して行動に起こし、多くの人に理解をいただきながら課題解決にもあたりたい。手漉き和紙という文化的な価値は町にとどめるだけでなく広域的に創造していける財産と捉え、近隣市町村を巻き込むような活動も引き続き行う。任期後は伝承の担い手としての役割を担うためにも、町の工房を利用した独立型の職人兼作家を目指す。

活動内容

●立岩和紙の伝承

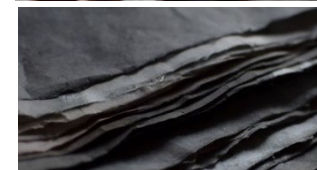
和紙の里にある工房を利用した和紙作りをはじめ、保存会活動への参加、地元産楮の栽培・収穫活動などにも取り組み活動にあたっている。現在では仕込みから紙漉き、乾燥までの全工程を一人で行う。歴史的経緯や工房の状況を踏まえ、冬場を中心に和紙作りに励み、合わせて和紙の原料を仕込む工程の明確化（データの保存と写真による記録）、楮の収量の確保への取り組み、他産地へ出向いて老朽化した道具や技術に関する情報収集などにもあたっている。



●創作的な実験、可能性の追求と関係構築

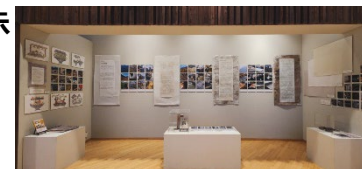
紙漉き屋が途絶えて50年近く経つ。大正～昭和にかけて生産があった「立岩和紙」といえば障子紙」という印象がいまだに残る。伝承させていくためにも、手漉き和紙という一つの素材の魅力を制限することなく、現代にあわせた形で発展させることが不可欠だと捉え、創作的な和紙作りや加工、レイアウトでの活用などに積極的に取り組み、町内のマーケットや県外での展示活動などへ参加。

また、近隣農家や大学などに協力いただき、廃棄や肥料にまわる食材や異素材を漉きこんだ和紙（葡萄和紙やトマト和紙）などの試作制作や授業での和紙の活用、講義への参加などにも取り組み、外の方たちとの関係構築にも努めている。



●発信・PR 上田市立美術館サントミュージゼでの特別展示

サントミュージゼで開催されている『第9回山本鼎版画大賞展』で「立岩和紙賞」が新設。受賞者への贈呈用和紙の制作と、大賞展期間にあわせて開催されている立岩和紙の特別展示についての内容や設営も含め、そのすべてを担当した。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス sasaki-s@town.nagawa.nagano.jp
電話番号 0268-88-0030（長和町教育課文化財係・歴史館）

【活動の様子を発信しているSNS】

Instagram @mershun

